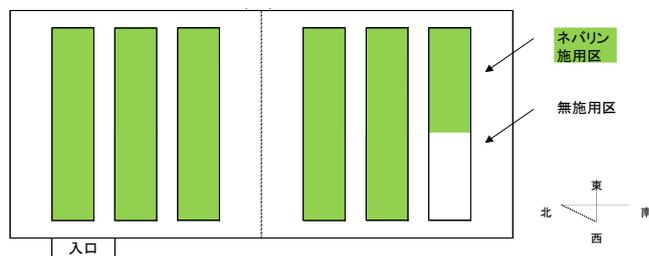


2023年7月12日

促成キュウリに対するネバリン施用効果の確認

日本肥糧株式会社

- 1 目的 : 資材施用効果の追跡
- 2 場所 : 高崎市吉井町
- 3 生産者名 : H様
- 4 JA担当者 : O様
- 5 栽培概要 : 作物 : キュウリ 品種 : 兼備1号
作型 : 促成栽培
定植日 : 2022年12月19日 収穫 : 2023年1月15日～
- 6 施用資材 : ネバリン100kg/10a相当を施用区、一部資材を施用しない無施用区を設けた。
- 7 圃場概要 : 無施用区を設けた畝で生育の様子を追った。無施用区の方が日当たりがよく、例年初期生育が良好。



- 8 結果 : 圃場の状況を撮影した様子を下記に示す。また、栽培終了時に根部を掘り起こし、根の様子を撮影した。



写真1 : 無施用区 (2023. 1. 12)



写真2 : ネバリン施用区 (2023. 1. 12)



写真3 : 無施用区 (2023. 5. 19)



写真4 : ネバリン施用区 (2023. 5. 19)



写真5：無施用区（2023.7.5）



写真6：ネバリン施用区（2023.7.5）



写真7：無施用区（2023.7.5）



写真8：ネバリン施用区（2023.7.5）



写真9：左 無施用区、右 ネバリン施用区

9 まとめ：初期生育は例年通り無施用区が良好だったが、日長が長くなるにつれネバリン施用区の生育が追いついた。写真3～6に示すとおり、生育途中は目に見える差はなかった。根部の様子を確認すると写真7～9に示す通り、ネバリン施用区では細根が良く発達しているような様子が確認できた。今回の試験はハウス全体にネバリンを施用し、一部無施用区を設けた。生産者様からは、生育差はあまり感じなかったが、試験を実施したハウスは例年に比べ収量が多く獲れた印象があるとのコメントを頂いた。根張りが良好になり、養分吸収が優り、例年より収量が獲れた可能性が考えられた。

以上